

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------|
| 事業所番号 | 2773801085 |
| 法人名 | 株式会社 フィールド |
| 事業所名 | グループホームこころあい |
| 訪問調査日 | 平成20年4月28日 |
| 評価確定日 | 平成20年6月2日 |
| 評価機関名 | NPO法人ナルク福祉調査センター |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2773801085 |
| 法人名 | 株式会社 フィールド |
| 事業所名 | グループホームこころあい |
| 所在地 | 大阪府羽曳野市島泉4丁目3番18号 (電話) 0729-31-0075 |

| | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポンアクティブライフクラブ | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年4月28日 | 評価確定日 | 平成20年6月2日 |

【情報提供票より】平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|--------------------------|
| 開設年月日 | 平成18年4月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 | 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.5 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------------|
| 建物構造 | 木造 造り |
| | 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 42,000~58,000円 | その他の経費(月額) | 29,000 円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(500,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 261 円 | 昼食 | 461 円 |
| | 夕食 | 561 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要 (平成20年 1月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 3 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 79 歳 | 最低 | 67 歳 | 最高 | 101 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 岡本内科クリニック いけおか歯科クリニック |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームも開設以来3年有余が経過し、開設当初こそ管理者の異動が続いたが、現在はスタッフもすっかり定着し運営も軌道にのっている。法人(株式会社フィールド)の代表者やホーム管理者もグループホームの特質をよくつかんでおられ、サービスは利用者本位にかつ地域密着型に組み立てられている。地理的にも小学校に隣接し、利用者もレクレーションの一環として小学生に来てもらうような受動的なものではなく、運動会などに自発的かつ積極的に参加され楽しんでおられる。羽曳野市全体としても高齢者介護に積極的に取り組んでいて、地域民生委員や介護相談員もホームの外部評価機関の1部として機能しており、この地域全体としてホーム利用者を温かく見守っているような印象を受けた。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価にて、①食べこぼしによる衣服の汚れや床の汚れに対しての速やかな支援の実施と②預かり金の管理内容の明確な提示の2点が指摘されていたが、すぐ管理者を中心に改善に取り組みまれ、①に関してはすぐに職員がさりげなくサポートされていた。②に関しては金銭出納簿提示時、領収書のコピーを家族に送られ、家族からは受領確認書をとるなど工夫されていた。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、主に管理者を中心に職員全員で取り組み、改善点を見出していった。その他、地域の民生委員や介護相談員の客観的な視線も参考にされた。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議についてはすでに2ヶ月に1度開催されており、出席メンバーについては地域老人クラブ会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所職員、介護相談員、利用者の家族代表者及びホーム職員など必要なメンバーは揃っており、ホームの近況報告などを行い、それに対して積極的かつ有益な意見をいただき、ホームの運営の参考にしている。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はすでに年2回開かれており、意見や要望、不安についてはお聞きするようにしている。預かった金銭についても出納帳をつけ、後で家族に報告し確認書をいただいている。ホーム便り(こころあい便り)も各個人ごとに担当職員のコメントをつけて月1回発行している。又、地域民生委員が家族の意見や相談事を仲立ちする外部評価機関として充分機能している。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域密着型サービスの実施として、利用者がこの地域で認められるようになることは非常に重要であることは理解しており、すでに地域老人クラブに加入して、地域主催の催し物(盆おどり、運動会、ゲートボールなど)にも積極的に参加している。地域独自の雅ネットにも参画している。又、ホームとして校区内の認知症患者を抱える家族の相談事にのったりしている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念として、「心豊かに、その人らしい安心のある暮らしを大切に、愛と笑顔で共に歩む」を掲げられている。地域密着型サービスは当然とのことで、それを「共に歩む」に込められた。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員や利用者、その家族、来客がよく目にとまるホーム入り口や壁などに掲示されており、ホーム全職員も理解している。月1回の全体会議などでも徹底している。職員はもちろん、民生委員にも理念を共有してもらっている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 利用者は地域の住人として認められ、老人クラブに入会し、地域主催の催しもの(盆おどり、運動会、ゲートボールなど)に参加している。ホームとしては、地域独自の「雅ネット(地域の3師会や福祉関係者および介護施設などのネットワーク:大阪府のモデルケースとしても取り上げられている)」にも参画している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 今回の自己評価については、法人の代表やホーム管理者が中心となって職員全員で取り組み、改善点を見出し出していた。その他、民生委員や介護相談員の客観的な視線も参考にした。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度開かれる運営推進会議では、利用者の家族、職員、地域からは老人クラブ会長、民生委員、地域包括支援センター、介護相談員などが出席し、活発な意見交換の場となっている。いただいた貴重な意見はホームのサービスの質の向上に活かしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ホームで起こった問題点については、必ず市の高年介護課などを訪ね、相談に乗ってもらっている。又介護相談員を受け入れ、積極的に意見を聞き、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時には必ず利用者の健康状態を中心に近況を報告している。金銭管理については、一定額を家族から預かり、利用者の買物時などには金銭出納簿をつけ、家族に確認してもらっている。又、各利用者ごとに担当職員のコメントをつけたホーム便り(こころあい便り)を毎月発行し、利用者の近況を伝えている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会は年2回開かれており、家族とホーム、家族同士の貴重な意見交換の場となっている。とにかく面会時には話しやすい雰囲気作りに努めて、いろいろ意見を言ってもらえるようにしている。又、いただいた意見や要望については、ホーム運営の参考にしている。民生委員もよく家族を訪問いただき、家族とホームの仲立ちをしてもらっている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者や職員の馴染みの関係を構築するため、職員の異動、離職については極力これを抑える努力をしている。新入職員が利用者によく馴染めるよう引継ぎに充分時間をとったり、又、チームケアを徹底して利用者へのダメージを防ぐ努力はしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のスキルアップ研修については、事業所内外の研修を積極的に受けしてもらい、その内容については必ず報告書にまとめて全員で共有するようにしている。又、職員が公的資格を取得するための時間的、金銭的な援助もしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ホームのサービスの質の確保には、同業者との交流は必要なことは充分理解している。そのために、3ヶ月に1度開かれる市内のグループホーム部会には出席してお互いに情報交換を行い、サービスの質の向上に役立てている。「雅ネット」もよく利用している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族とコミュニケーションをとりながら利用者の生活歴、生活状況、性格、趣味などを把握し、すでに入居前から職員と顔馴染みになっているような関係を構築し、入居されてから徐々にホームに馴染めるよう、段階的に役割を持っていただき、早く落ち着かれるよう支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | その人らしい生活を重視しながら、料理や野菜の育て方、土の改良の方法、会って話すどほっとする様な関係づくり、相談事などを通して学びあい、支えあっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | フェースシートにより入居前後の様子を把握し、利用者の希望や思いをくみ取り、意思疎通が困難な場合は家族や関係者から情報を得て、一人ひとりの思いを検討している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 居室担当がモニタリングを行い、定期的な(必要時は随時)カンファレンスにて、全職員または関係者を交えてその人らしい最良の生活を支えるための介護計画が作成されている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月に1回見直しを行うが、変化に応じて現状に即した対応、並びに家族や本人の要望、職員の気づきで介護計画の見直しが随時行われ、その都度家族に連絡している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の馴染みのお店や美容院への送迎、並びにご主人様の入院による見舞いのための特別な外出、移送など家族の要望希望を踏まえ、柔軟なサービスの提供に取り組まれている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 連携医による定期的な受診や、利用者の病状によって適切な医療を受けられるよう支援しながら、家族の希望も大切に、受診、検査結果に関する情報の説明をしている。又、お便り(こころあい便り)でもお知らせして納得していただいている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者および家族、医師、管理者、職員の意思統一により、終末期の看取りを踏まえて気づきや振り返りにより、対応し得る最大の支援方法として看取りケア(終末期における看取り介護)指針を作成し、看取り期の援助につなげている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 契約時にプライバシー保護の説明を行い、家族の了解を得ているが、「尊厳」ということは日常の中で当たり前のこととして配慮され、「個人情報保護外来受付簿」も作成され、プライバシーの保護の徹底に向け取り組んでいる。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のその人らしい過ごし方を把握しつつ、待つ行為の不得手な利用者の気持ちを踏まえ、可能な限りそのペースに寄り添えるよう支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その人が発揮し得る力の中で、料理の下ごしらえ、食膳の上げ下げ、食器洗いなどを職員と一緒に和気あいあいとされ、お誕生会などの行事では、献立をリクエストされたり、おやつ、ケーキ作りを楽しまれたりしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には2日に1回の入浴であるが、利用者の希望も出来るだけ取り上げ、時間調整も行われている。不安や羞恥心に配慮され、嫌がる利用者には理解を示し、利用者に合った入浴支援が行われている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 「利用者がその人らしく暮らし続けるための支援」ととらまえ、個々の生活歴を重視し、お花を活ける方、畑に肥料をまき野菜作りに精を出される方、針仕事をされる方、俳句を楽しまれる方など、声かけによって一人ひとりに合った役割、楽しみごと、気晴らしの支援が行われている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 普段は近くへ随時散歩に出かけ、神社やハナミズキを見て近所の方と挨拶を交わし、動植物を介在させた交流もあり、近隣スーパーへ買物に出かけたついでに、お茶を飲みながら買ったお菓子を食べたりして、外出を楽しまれる支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は防犯上かつ家族の要望もあり、危機管理上かけざるをえないが、利用者が外出したような様子を察知した時は、さり気なく声かけをして、一緒に外出するなどして見守りケアを心がけている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回利用者と一緒に避難訓練を実施し、全員で避難経路を確認している。消防署対応(問答想定)マニュアルを作成し、自主消防計画に取り組み、地域にも協力を呼びかけている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材提供会社より栄養バランスの考慮およびカロリーチェックされた献立が確保されている。各個人ごとのバイタルチェックや排便シートに、食事の摂取量、水分の摂取量、健康状態が記入され、その方に応じた支援が行われている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関へのアプローチに季節の花が植えられ、共用空間の採光も程よく、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。廊下に椅子が配置され、居間の前庭は生活観と季節感を感じさせ、居心地のよい暮らしの場を提供している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはカーペット、家具、テレビ、家族の写真などその人らしい馴染みのものを持ち込まれ、お花を活け、家族の協力のもと安心して過ごせる工夫がなされている。又、ホーム側からは照明、カーテン、エアコンを提供し、居心地よく暮らせるよう支援している。 | | |